

## 第6回新福岡県立美術館基本計画策定委員会 議事要旨

### 1 日 時

令和3年11月11日（木）15:00～16:00

### 2 場 所

福岡県庁8階特別会議室（一部WEB方式）

### 3 出席者（五十音順、敬称略）

<対面>

伊東順二（会長）、小田部黄太、辰田一郎、貫正義

<オンライン>

稲庭彩和子、内田まほろ、小林正美、坂井猛、中川美彩緒、中村信喬、福永治、宮城俊作

### 4 議事概要

開会にあたり伊東会長より挨拶を行った。

いよいよ最後の委員会となったが、新美術館設立の始まりの委員会でもあると思っている。これまでのご協力、そして事務局も含めて、皆様のご尽力にお礼申し上げます。本日は、はじめに基本計画の最終案を取りまとめ、その後、委員の皆様から一言ずつコメントをいただく。最後に、本日は服部知事が参加されるので、基本計画最終案を知事に報告したい。いつものように熱いコメントをいただきたい。

### 5 議事等（○＝委員発言、●＝事務局・知事発言）

- 基本計画（案）について、先日実施されたパブリックコメントの概要報告も含め、事務局から説明をお願いしたい。（伊東会長）

事務局より、基本計画（案）及びパブリックコメントの概要報告を行った。

- 「新県立美術館基本計画（案）」について説明する。  
前回の第5回委員会でご審議いただいた、基本計画（素案）をもとに、10月4日から10月15日まで、県民の方々を対象に、パブリックコメントを実施し、89件のご意見を頂戴した。いただいたご意見を内容に応じて整理し、ご意見に対する県としての考え方や、基本計画への反映についてまとめたものを、「資料2」として配布している。いただいたご意見は、基本計画の全般にわたっており、しかも単なる感想に終わるのではなく、こうすればどうだろうかといった、提案を含んだご意見を数多く頂戴した。専門的な視点からのご意見や、文化芸術全般のあり方を踏まえた大局的な視点に立ったご意見もあり、今回の基本計画の案を練り上げるうえで、大きなヒントとなった。パブリックコメントのご意見や、ご意見を受けての対応状況を中心にしながら、「新福岡県立美術館基本計画（案）」の全体を説明する。  
では早速、資料1「新福岡県立美術館基本計画（案）」をご覧ください。  
「第1章 基本計画策定の背景と経緯」は、福岡県立美術館の概要と、基本計画策定にいたるこれまでの3つの審議会について述べたものである。

次に、「第2章 目指す姿とコンセプト」、資料の4頁と5頁について、ここは、新県立美術館が目指す4つのコンセプトと、そのコンセプトが導き出された背景について、記述している。赤字は、パブリックコメントのご意見を受けて、基本計画（素案）から変更あるいは追記した箇所を示している。

4頁の最初に、福岡県の古代から中世にかけての歴史的・地理的な特徴を挙げているが、県全体の地域性や近代以降の本県の歴史についても記載すべきではないか、というご意見をいただいた。そこで、筑豊や大牟田、北九州などにおいて、石炭や製鉄などの産業拠点として、福岡県が日本の近代化を牽引してきた側面を、本文に加えた。

基本計画（素案）において、アーティストと芸術家という言葉の使い分けが不分明であるとのこと指摘から、芸術家という言葉で整理を図った。美術館のための美術館でなく、県民や芸術家のための美術館である姿勢を明確に示すべきとのことご意見を頂戴し、また、美術館がオープンしたときに完成するのではなく、時間をかけて県民とともに作り上げていくイメージが相応しいのではないかと、という貴重なアドバイスもいただいたため、4頁の下の段で、「県民や芸術家が主役となり、県民とともに成長する、県民が親しみ、誇りを育む美術館」という言葉で、県民や芸術家が美術館の主人公であることをはっきりと打ち出した。

また、5頁の2つ目のコンセプト「九州・福岡県の文化芸術の発展に貢献する美術館」においても、四角囲みのなかの、2番目の項目に、「県民の」という言葉を加え、福岡県の美術遺産が、なによりも県民にとって大切な遺産であることを明確に示した。

次に、5頁の最初のコンセプト「芸術の可能性を拓げ、挑戦する美術館」の2番目の項目では、新しい美術表現は、最先端技術を使ったものばかりではない、というご指摘をいただき、誤解を受けないように、最先端の技術を活用した作品は、新しい美術表現のひとつの例示であることがわかるように修正を行った。

そのほか、パブリックコメントでのご指摘を受け、2番目のコンセプト「九州・福岡県の文化芸術の発展に貢献する美術館」の3番目の項目では、記載が抜けていた県内の美術館を加え、3番目のコンセプト「県民が親しみ、誇りを育む美術館」では、基本計画（素案）にあった「波及効果」という言葉を内容に即して、「文化芸術活動の効果を県内各地域にもたらす」と、わかりやすく書き換えた。

また、隣接する福岡市美術館との連携や共同について記載すべきではないかとのことご意見を受けたため、4頁、5頁で反映した。

続いて、「第3章 機能と役割」、資料の6頁以降について、4つのコンセプトを新県立美術館において実現するために考慮すべき社会的な環境や情勢、そして新しい美術館の具体的な機能のあり方について記述している。6頁から8頁にかけての「文化芸術を取り巻く社会情勢」については、とくに修正はないが、SDGsへの取り組み、先端技術の導入にあたっての維持管理の重要性、博物館・美術館に関する文化庁の近年の審議会での内容に対する対応、といった観点からご意見をいただいた。

資料9頁からの「新県立美術館の機能と役割」では、収集保存、展示公開、調査研究、教育普及 連携交流、情報発信、そして美術館の快適な利用の、合計6つの機能に分けて、それぞれ具体的に示している。

10頁の「収集保存」では、作品購入において、クラウドファンディングやふるさと納税など、不安定な財源をあてにする書きぶりではないか、というご指摘をいただき、誤解のないように、表現を改めた。

「展示公開」の機能について、12頁の「ウ 県民や若手作家への発表の場の提供」の項

目に、「県民ギャラリーは、障がいの有無や年齢等に関わらず、多様な人々がそれぞれの個性や能力を発揮し、作品を発表できる場とする。」という一文を、新たに加えた。これは、ダイバーシティやインクルージョンの視点を、展示公開や調査研究、教育普及の機能の中で具体的に示すべきとのご意見に対し、他の機能での記述に比べて、展示公開の機能では、ダイバーシティやインクルージョンの観点からの具体案が不十分であったため、加筆を行ったものである。

本文の変更はないが、その他のパブリックコメントのご意見として、若手芸術家の創作や発表機会の提供を充実させること、福岡県の作家を総合的に紹介するため、常設コレクション展示を充実させること、また、革新的な展覧会やパフォーマンスの発表に適した展示室のありかたや、いわゆるハンズオンと呼ばれる参加体験に関わるご指摘、日本庭園を活用した日本文化発信に対する期待、そのほか、継続的に調査研究を行うための環境整備として、学術研究機関の指定を受けてはどうかといったご提案など、多彩なご意見をいただいた。

次に、「第4章 施設整備計画」、資料の17頁以降について、この章では、敷地である大濠公園南側の概要、施設整備にあたっての方針、敷地の利用計画、具体的な施設計画、そして施設の周辺整備の考え方、以上5つの事項を記載している。

パブリックコメントでは、諸室についてのご意見として、現在の県立美術館にはない、行けば必ずコレクションを見ることが出来る常設展示室の設置、収蔵庫については十分なスペースの確保、そして、カフェ・レストランについては、ファミリー層も気軽に利用できる憩いの場を望む意見があった。

また、建築についてのご意見では、周囲と調和し、景観を阻害しないこと、コンクリートではなく自然素材の木造建築にしてほしい、大川の組子、博多織、八女灯籠、高取焼など福岡県の伝統文化を理解した設計者を選定してほしい、また、災害時の避難にも機動的に対応できる機能を備えるべきだ、といったご要望をいただいた。

それから、隣接する福岡市美術館との間の空間やアプローチ動線についてのご意見もいただいた。

基本計画（素案）の本文への変更でいうと、技術革新への対応だけでなく、今後出現するかもしれない新たな美術表現にも対応すること、というご意見を踏まえて、25頁の「施設整備方針」の「基本方針」の②において、表現を改めた。

最後の「第5章 管理運営計画」、資料の48頁以降について、「管理運営の基本的な方針」として、49頁の図にあるように、「公の施設」「美術館としての特性」「コンセプトの実現に向けた運営」という3つの視点に立って、具体的な方針内容を挙げている。そして組織体制、運営のあり方、現在の県立美術館の活用方策、最後に今後のスケジュールについて書いている。

パブリックコメントでは、民間サービス導入が求められるとしても、地域文化を育んでいくという、公の施設としての役割を重視すること、魅力的な美術館運営のために予算と人材の十分な確保をすること、といったご意見が寄せられた。また、人材の流動性を図るような組織体制の構築、専門性をもった人材の確保、現在の県立美術館の有効活用といった点からもご意見があった。今後も幅広く県民の声を聞くことや情報の公開を求めるご意見をいただき、このことについては、51頁の「今後のスケジュール」の中に追記した。

一方、将来に禍根を残さないよう、増大する経費への慎重な対応を求める貴重な意見もいただいた。

その他のご意見として、コロナ禍でアート関係者が苦しんでいる中で、新県立美術館の基

本計画を作る必要があるのか、といった厳しいご意見もいただいた。検討をはじめて10年が過ぎ、新県立美術館の開館を待ち望む声を多く聞いている。こういう時代であるからこそ、新県立美術館の開館に向けた歩みが、県民の皆様に芸術文化の大切さについてご理解を得るきっかけとなり、広くアート関係の皆さまにも希望となるよう、取り組んでいくことが肝要と考えている。なお、この基本計画（案）では、ただいまご説明申し上げたパブリックコメントに寄せられたご意見を受けての修正や加筆以外に、言葉の整理や、記述の正確さを図る目的での修正も行っていることを申し添えたい。以上で、「新福岡県立美術館基本計画（案）」についての説明を終了する。（事務局）

伊東会長より基本計画（案）を委員会の最終案とすることを全委員に諮った。

基本計画（案）、それからパブリックコメントの報告をしていただいた。この資料をまとめるにあたり、パブリックコメントも県民の方々のご意見として、私もすべての意見に目を通した。これだけ多くの意見が出たということは、県民の皆様の新県立美術館に対する期待や関心の高さの表れだろうと思っている。また、私たちが気づかない様々な点についても多様な意見をいただき、それは福岡県という、文化と産業が豊かな都市の力と思っている。この最終案には、これまでの委員会での議論やパブリックコメントの意見は、まだまだ十分と言えないながらもできるだけ反映した。色々なコメントまたはご意見にお礼申し上げます。それでは、この基本計画を、委員会の最終案として取りまとめたと思うが、いかがか。（伊東会長）

全委員より異議なく了承された。

- 本日は最後の委員会となるので、各委員から、新県立美術館に対する期待や助言など、一言ずついただきたい。（伊東会長）
- 基本計画のご説明にお礼申し上げます。新しい美術館をこれから作っていくにあたっては、アートを介したコミュニケーションがある「フォーラム」としての美術館を検討する必要がある。美術館の古い形から新しい形への変化を言い表す言葉として、「 templeからフォーラムへ」と言われたりするが、 templeは既に価値の定まったものを拝む場所であり、新しいフォーラムというのは、未知に出会い、価値を創造する議論の場というふうに言われていると思う。これから新しくできる美術館は、まさにそのフォーラムの機能をきちんと持った美術館になることができればよいと思っている。そのために、やはり人と人、作品をつないでいくような専門性を持った人材と、その事業ができる予算というのがきちんと確保できることが重要かと思っている。（稲庭委員）
- このたびは、稀にみる良い立地で、本当に素晴らしい計画に基づいた美術館ができるという事で、本当に期待している。国の機関にいた観点から、また、広くミュージアムというところに長く関わった観点から、3つほど期待していることをお伝える。  
1つ目は、1970～80年代に、本当にいろんな地域に、美術館や科学館、いわゆるハコモノがどんどん建って、それらが今、お客さんが少ないとか、働く人がうまく取り入れられないといった、中々難しい問題があるが、この福岡のプロジェクトが、そういう今まであったハコモノをうまく刷新して、より社会に開かれた、県民の皆様が非常に喜んで使える

ような場になる、そのモデルになっていくことを期待している。

2つ目に、この美術館では、アートの役割を、テクノロジーなども含めて美術の分野を広げ、地球温暖化や高齢化社会などSDGsの話もある。美術・アートというものがどう社会に関わっていくのか、どう社会の役に立っていくのか、今後問われる時代になってくると思う。アートの役割というものが、この美術館を通して再定義されたら良いと思っている。最後に、若い世代やお子さんなどは、日々、YouTubeとかゲームとか、今日、我々もZoomで会議をやっているが、これからの若い人たちは人生の半分ぐらいをバーチャルの世界で生きようになると思う。そのような世界の中で、美術館、公共施設・文化施設というところが、リアルな場とバーチャルをつなぐ本当に実験的な役割を果たすのではないかと思っている。美術館が、少し長い目で見たら、新しい世界におけるリアリティ、人類の進化について、実験しながら問い、創り出すような、そういう役割が担えたら素敵だと思っている。(内田委員)

- 今お二人の委員のお話にもあった様に、今後様々な技術革新、バーチャル空間、あるいはダイバーシティ・インクルージョン、更にコロナ後の社会といったような社会の変化を見据え、今回の報告書の計画にもある様に、新たな美術表現が出て来ることで、美術や表現が変わって来ると同時にその役割というものも変わって来ると考える。そしてそれが新たな社会状況の中で非常に重要な役割を担っていく、あるいは担っていかなくてはならないと考えている。そういう意味で、今回の計画について、各委員も仰っているように、非常に良い計画ができたと私も考えており、これをしっかりと機能させていただきたい。先ほど稲庭委員からもお話があったように、新美術館の機能として、美術館の中にその役割が閉じるのではなく、それが社会につながっていく、建物としても公園とか福岡市美術館と連携して何ができるか、あるいは地域の自治体や企業と連携してという観点も必要になってくる。そういったものがしっかりと機能することが重要であり、そのための人材というものをしっかりと確保して機能させていただきたい。更に、もう一步進めて、新たな美術館や美術表現が社会に対して機能していくということに関わってくる様々な人材の育成、すなわち新たな観点を持った若手の学芸員やキュレーター、ギャラリストなどを育てていくような機能を新県立美術館が持つ事ができれば、そういったことが福岡県下や九州に広がっていく事につながっていく。そのための人材育成の観点を持っていただくことを、ぜひお願いしたいと考えている。(小田部委員)
- 私は他の委員会などいろいろ参加しているが、今回の委員会は、きわめて丁寧な形で審議が行われ、良い基本計画ができたのではないかと思っている。特に伊東会長も言われていたが、パブリックコメントにかなり細かいところまで指摘があって、専門家かもしれないが、広く県民から注目を浴びているというように感じた。特に今回の計画では、地域や伝統的な芸術に加えて、今までにないタイプの新しい美術館が生まれる可能性があり、まだ、伸びしろというか、計画に幅を認めているので、どのような美術館ができるのだろうかという辺りを期待したいと思っている。私の専門は建築および都市デザインであり、いままで私たちによるいろいろな景観に関する指摘などを反映していただいた。あまり厳しい制約を与えないで、これから応募されるプランナーやデザイナーが自由にアイデアを提案してもらえるようになっているのではないかと思ひ、期待している。(小林委員)

- 県と市の両方の都市計画審議会をお手伝いしている関係で、県と風致関係の両者のつなぎなどをやらせていただいた。また六本松駅への繋がり、それから敷地周辺の都市計画との関係、大濠公園内と周辺からの美術館の景観としてのボリュームの見え方、美術館から見える重視すべき、福岡城址とか、大濠公園の水面の景観、そういったことを見る視点場の設定などについて少し協力をした。意見をしっかり吸い取っていただきお礼申し上げます。以前、大濠公園の立地を決める、ここに新県立美術館の立地を決めるという会にも参加し、その時に世界の美術館に負けないものをするという事を随分申し上げたが、県では伊東会長と皆様の立派な検討体制を敷いていただいて、加えてソフト面・ハード面の双方からの先端の議論に私も加えていただいたことは大変光栄なことであった。今回の計画で世界に誇る美術館ができる準備が整えられたのではないかと私は思っている。ただ、大事なのは設計に入るこれからだと思うので、福岡県の皆様でよい展開をしていただくよう、進展を期待申し上げます。(坂井委員)
  
- まずは、このような委員会に参加させていただきお礼申し上げます。パブリックコメントが89件寄せられたということで、これを見ながら、大事な意見が、目指す姿とコンセプトのところにたくさんあったと思っている。特に私の心に留まったのは、美術館は利用者のためのもの(将来の利用者も含め)、そして、主役は芸術や美術作品そのものではなくて、それを見る・作る人を主役にした姿勢が望ましいということ。改めてご指摘があったことを、美術館の運営に携わる者として、身につまされた思いです。どうしても準備を進めていると、あれも盛り込みたい、これも盛り込みたい、こういう人材も欲しいと作る側としては考えると思うが、オープンした時に、そこが完成ではなく始まりなんだということが、非常に大事だと改めて感じた。最初に伊東会長も言及されたように、一緒にやっていく人とともに変化していく柔軟性が必要なのだと思う。これから施設や管理・運営を具体的に形にしていく時に、忘れてはいけないことではないかと思う。そのためにもなるべく今はシンプルに考えて、柔軟に対応できるような進め方が出来たらもっといいのではないかというふうに思った。施設、あるいは人材、機能、管理運営のやり方にしても、いろいろな理想的なものを盛り込みたくなると思うが、そこに向かって力いっぱいやって、できたらそこで終わり、ではなく始まりなので、そういう柔軟性があつたらいいと思う。富山県水墨美術館には日本庭園があるということで委員に呼んでいただいたと思うが、大濠公園や日本庭園の素晴らしい利用の仕方を検討しておられ、こちらも大変完成を楽しみにその日を待ちたい。(中川委員)
  
- 資料と計画をまとめられた事務局の方々にお疲れ様と申し上げます。私は3つほどコメントさせていただきたいと思う。  
1つ目は、今も出ていたように、基本計画というのはかなり理想的なことを盛り込んでいるので、それを全て実現できるわけではないということを指摘しておきたい。実際には、取捨選択というか、強弱をつけざるをえない部分が出てくるのではないかと思う。  
2つ目は、今コロナで皆苦しんでいるが、こういう状況の中で、美術館とか美術の展覧会のあり方が変わっていくという予想を持っている。そういう意味では、その都度適切に、臨機応変に、先程中川委員が言及したが、柔軟に対応していくことが必要ではないかと思う。  
それから3つ目、恐らく実際の準備にかかる時に専門家が採用されて作業を進めていかれると思うが、その人たちの現場感覚というものを是非尊重してもらいたい。この基本計画

は、設営運営する側としては理想的な案となっているが、準備にたずさわる専門家が考えることを、県としてバックアップしてもらいたいと思う。繰り返しになるが長い時間をかけてこの計画を作られたことに敬意を表したい。(福永委員)

- この基本計画(案)は素晴らしい案だと思っている。この福岡の県は全国の人に聞いてもいちばん来たい街、行ってみたい街、来たらまた楽しい街ということで、人が集まるような街にもともなっている。古来よりこの芸術文化、それから衣料、食、全てをこの九州・福岡が発信できるので、芸術・文化がもっともっと発信できる美術館になってほしいと思うし、県立レベルの美術館で協賛や賛助会員などの仕組みも運営がなかなか厳しい、全国的にも美術館や博物館では非常に厳しいのだと思う。

企業とアートが新しい経済を生んでいって、アートが企業にもっと使われ、その中で美術館も人がたくさん来て、もっと人がたくさん来なくなるような美術館になってほしいと思っている。本当に長い年数、この基本計画を策定された関係者の方、本当に感謝している。(中村委員)

- この度の委員会、私ども、特に私にとっては大変刺激的な機会であった。様々な多様なジャンルの皆様と意見を交換することができたということ、そのことが一つ形として基本計画にまとまっていったというように感じている。この間大変努力を重ねられました皆様に敬意をまず表したい。

私の方からは2点ある。まず1点は、この立地が大濠公園の中ということ。ご存じだと思うが、この公園は本多静六という、日本のランドスケープデザインの先駆者による成果である。そしてまたこの新しい日本庭園、これは中根金作という昭和を代表する日本の造園家の作品である。こういった2つのレガシーあるいはヘリテージがある場所に新たに作られる美術館ということなので、ぜひこの立地を最大限に生かせるような、そのような設計と施工、そして竣工後の運営を含めて実現していただきたいと思っている。

2点目は、初回の委員会の時に申し上げたことだが、美術館の「館」という言葉の意味について、これはやはり、私はそろそろ変わらなければいけないのではないかと考えている。芸術作品をしっかりと保護していく、あるいは後世に継承していくという意味で、しっかりとした「館」的なもの、アートの館はコアとしてあるべきだと思うが、その外側においては、インターフェースになる部分をもっと柔らかく、開き、可変性があるような、そういう領域で「館」が包み込まれるような、そのような場所を考えていただければよいと思う。そういう意味では、近い将来、この施設の名称をどうするかということがいずれ議論になると思うが、その時にもやはり「名は体を表す」という言葉があるので、ぜひ私が申し上げたところも考慮していただければ良いと思っている。(宮城委員)

- まず、基本計画(案)については、伊東会長をはじめ、各委員の皆様と県の事務局の皆様の大変なご尽力により大変素晴らしい案ができたと考えている。

私から1点だけ、意見を申し上げたい。災害時の対応に加えて、先般発表された、国の第6次エネルギー基本計画に対する、設備面等での対応についてである。国の計画のポイントは、2030年に向けて、2019年に比べて、電化率は26%から30%に高める、再生可能エネルギーは18%から36%に倍増する、しかしながら電力の発電量は約9%削減するというものである。その結果として、電力供給の不安定化が懸念される。すなわち昼間は変動が激しい太陽光発電が主力電源となり、夜間においては石炭火力のフェードアウト等によ

り火力電源が減少し、電力需給がひっ迫することが懸念される。昼も夜も電力需給が不安定になることが懸念される。これに対応するために、非常用電源の規模をどの程度にするのか、あるいはまたその燃料を、軽油なのかガスなのか水素なのか、あるいは電池との併用化、長時間停電の場合の燃料補給をどうするのか等々、心配しすぎるぐらい、考えていただいても良いのではないのかと考えている。電力の安定確保は美術館の ICT 化を進めるうえでも大変重要であり、ぜひこの辺ご検討いただきたい。(貫委員)

- 当美術館は 1964 年からスタートしており、もう半世紀を超えて、老朽化はもちろん、機能的にも今の美術館に求められるニーズを十分に満たすことができないような状況で、新たな美術館を作るといって我々としても大変期待をしている。色々な専門分野の委員からの意見をいただいて、素晴らしい基本計画になったと考えている。この中身につきましては非常に素晴らしく、まさにこれから、これを具体化していく工程に入ることになるが、福永委員が言及したように、ここに述べられていることを令和 11 年度開館時点で全て実現するという事は現実問題としてなかなか難しいのだろうと思っている。したがって、できるものから、今の美術館に取り入れることができるものについては、ぜひ活かしていきたいと考えている。また新しい美術館建設に向けてこれからお金ももちろんかかることだが、何よりもそれを運営する人材の確保、これがいちばん大切だろうと思うので、今後計画的な人材確保について、ご尽力を賜りたい。(辰田委員)

伊東会長より、全 6 回にわたって開催された本委員会について、総括が述べられた。

相変わらず皆様の熱い想いが伝わってきて、本当に少しでも多くの人にこの案の作成の気持ちを分かっていたいただければと思っている。最後に私からも一言申し上げたい。昨年 7 月にこの会長を拝命し、この案を今、この計画を推進していらした服部知事にご報告すること、本当に幸せに存じている。また、県や美術館の皆様には、本当に毎日このことを考えなくてはならないのではないのかというくらいの課題を出してしまい、それを逐一聞いていただいて本当に有難く思っている。

これは最初に申し上げたように、結果ではなく、始まりのための計画案である。この中の言葉ひとつひとつが県民の皆様の協力を得て記されたものである。福岡県域は、古代からの日本の文化と大陸文化の接点を、その高い次元の融合を送り出した県域である。その伝統を繋がれている県民の皆様が満足できるような美術館でなくてはならないし、そして今、長いコロナの状況が人々の心を大変痛めている、その時にやはり、日々感動を与えることができる芸術という分野、そしてまたそれに育まれる文化という分野が、先ほどお話がありましたように、エネルギーや先端技術、NFT なども含め新しい技術とともに、社会の基盤として成立しようとしている時期に、このような素晴らしい内容を持つ美術館が、この規模の素晴らしい景観を以て作られようとしていることは、万感の思いをそそられるものである。ここで、本日は服部知事にご出席いただいているため、先程取りまとめた基本計画の最終案を知事にお渡ししたい。(伊東会長)

伊東会長より服部知事へ、基本計画最終案が手渡された。

「新福岡県立美術館基本計画(案)」を、委員の皆様のご気持ちを代表して私が報告させていただきます。これからぜひこれを現実化していただき、素晴らしい美術館、そして福岡県



の文化の発展の礎となることを切に願っている。(伊東会長)

服部知事より委員会に対するお礼の言葉が述べられた。

● 委員の皆さん、改めましてこんにちは。

昨年7月に設置した「新県立美術館基本計画策定委員会」も本日で最終回となった。約1年半にわたり、伊東会長、そして委員の皆様方には、コロナ禍の中で大変熱心にご議論をいただきまして、心より感謝を申し上げます。この委員会では、美術館の基本的な役割はもとより、この新しい時代に相応しい美術館のあり方について、多方面から丁寧にご検討いただいた。そして、専門的な観点から多くのご意見を賜り、パブリックコメントの県民の皆様のご意見も踏まえ、基本計画にも盛り込んでいただいたところである。

先ほど、委員の皆様お一人お一人から、新県立美術館に対する期待、ご助言をいただいた。「これからの社会において果たすべき役割、また、この大濠公園という立地を最大限に活かすべきである。」あるいは、「人材の確保・育成についての対応を柔軟にすべきである。」といった様々な期待・ご助言をいただいた。しっかりと受け止めさせていただきたい。また、伊東会長からは、「始まりのための計画案である。」というお言葉があった。この計画案をもとに今後、しっかりと県民の皆様が満足できるような、そして、日々感動を与えることができるような新県立美術館の実現に向けて、着実に取組みを進めてまいりたいと考えている。

県といたしましても、今回まとめていただきました計画案に沿って、本当に「世界の美術館に負けないものを」というお言葉があったが、国内外に誇れる新時代に相応しい美術館にこの新しい美術館をしていけるようしっかりと取り組んでいきたい。今後とも、委員の皆様方には引き続きご支援・ご指導を賜りたく心よりお願いを申し上げます。本当に、皆様方のこの1年半にわたる熱心なるご議論、またご検討を賜りましたことにお礼申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。皆様、本当にありがとうございました。(服部知事)

閉会挨拶(事務局)